

専修以外の発展科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
発展海外研修Ⅰ	発展海外研修Ⅰ	3	文学部学務教育室長	通年集中 その他 連講	
発展海外研修Ⅱ	発展海外研修Ⅱ	6	文学部学務教育室長	通年集中 その他 連講	
博物館概論	博物館の機能と学芸員の果たすべき役割	2	岡部 幹彦	前期集中 その他 連講	
博物館経営論	博物館経営論	2	高橋 修	前期集中 その他 連講	
博物館資料論	博物館資料・標本の特性	2	藤澤 敦	後期 金曜日 1 講時	
博物館資料保存論	博物館資料保存の方法と実務	2	水沢 教子	後期集中 その他 連講	
博物館展示論	博物館展示の理論と実践	2	水沢 教子	後期集中 その他 連講	
博物館情報・メディア論	博物館情報の現在	2	皿井 舞	前期集中 その他 連講	
博物館実習Ⅱ	史料整理・保存の理論と方法	2	籠橋 俊光	前期 金曜日 4 講時 前期 金曜日 5 講時	
博物館実習Ⅲ	博物館学資料分析法	2	鹿又 喜隆	後期 水曜日 3 講時 後期 水曜日 4 講時	
博物館実習Ⅳ	美術作品取り扱いの理論と実践	2	長岡 龍作 杉本 欣久	前期 火曜日 3 講時 前期 火曜日 4 講時	
博物館実習Ⅴ	美術作品の視覚的分析：入門編	2	足達 薫	前期 火曜日 3 講時 前期 火曜日 4 講時	
博物館実習Ⅵ	館園実習	1	藤澤 敦	前期集中 その他 連講	
地理学B	都市地理学からみた仙台	2	村山 良之	前期 木曜日 3 講時	
地誌学	都市社会の諸相・諸課題	2	小田 隆史	前期 水曜日 1 講時	
キリスト教史	キリスト教の歴史	2	宮崎 正美	後期 金曜日 2 講時	
書道	書表現の基礎(一) (漢字)	2	下田 真奈美	前期 木曜日 4 講時	
書道	書表現の基礎(二) (かな)	2	下田 真奈美	後期 木曜日 4 講時	
日本語論文作成法Ⅰ	アカデミックライティングの基礎	2	高橋 亜紀子	前期 火曜日 2 講時	
日本語論文作成法Ⅱ	アカデミックライティングの書き方	2	高橋 亜紀子	後期 火曜日 2 講時	
日本語・日本文化論各論Ⅰ	日本語・日本文化論各論Ⅰ：近現代の ポピュラー・カルチャー	2	KOPYLOVA OLGA	前期 金曜日 3 講時	
日本語・日本文化論各論Ⅱ	日本語・日本文化論各論Ⅱ	2	KOPYLOVA OLGA	後期 金曜日 3 講時	

専修以外の発展科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
人文社会科学総合	研究と実践の倫理	2	原 塑・戸島 貴代志・ 阿部 恒之・木村 邦博・ 坂井 信之・辻本 昌弘・ 小林 隆・小泉 政利	前期 水曜日 5 講時	人文社会科学総合
人文社会科学総合	死生学文献講読	2	高橋 原	前期 水曜日 5 講時	人文社会科学総合
人文社会科学総合	実践宗教学試論～宗教者によるケア実践（オムニバス）	2	高橋 原	後期 水曜日 5 講時	人文社会科学総合
人文社会科学総合	死から生を考える臨床死生学：人間の死とは何か？	2	大村 哲夫	前期 月曜日 2 講時	人文社会科学総合
人文社会科学総合	悲嘆学試論：自他の死をどう受け止めるか？	2	大村 哲夫	後期 月曜日 2 講時	人文社会科学総合
人文社会科学総合	＜人間中心＞で情報端末をデザインする	2	直江 清隆 堀尾 喜彦 佐藤 茂雄 高浦 康有 山内 保典	前期集中 その他 連講	人文社会科学総合

科目名：発展海外研修 I / Overseas Study (Seminar) I

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：通年 単位数：3

担当教員：文学部学務教育室長

コード：LB98834 科目ナンバリング：LHM-OAR905J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：発展海外研修 I

2. Course Title (授業題目)：Overseas Study (Advanced Seminar) I

3. 授業の目的と概要：この授業は、3 か月以上の海外留学を行うものを対象とし、その海外留学経験を深化・発展させることを目的とする。海外留学中に月一回程度のレポートを提出し（電子メール）、帰国後には留学で学んだことを整理し、総合的に振り返るレポートを提出してもらう。また面接を実施し、留学で得た知見を発表してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is aimed at students who will be studying abroad for 3 months or more and is intended to deepen and enrich the experience of studying overseas. Students are required to submit monthly reports (by email) during their time as exchange students and a comprehensive report on the knowledge they gained abroad after they return. Interviews will also be conducted and students will give a presentation on their experiences abroad.

5. 学習の到達目標：

海外留学で得た経験と知識をきちんと表現できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn to properly express their experiences studying abroad and the knowledge that they gained.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. レポート作成とそれに基づいた指導 1
2. レポート作成とそれに基づいた指導 2
3. レポート作成とそれに基づいた指導 3
4. レポート作成とそれに基づいた指導 4
5. レポート作成とそれに基づいた指導 5
6. レポート作成とそれに基づいた指導 6
7. レポート作成とそれに基づいた指導 7
8. レポート作成とそれに基づいた指導 8
9. レポート作成とそれに基づいた指導 9
10. レポート作成とそれに基づいた指導 10
11. レポート作成とそれに基づいた指導 11
12. レポート作成とそれに基づいた指導 12
13. レポート作成とそれに基づいた指導 13
14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1
15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2

8. 成績評価方法：

レポート[50%]・面接試験[50%]

9. 教科書および参考書：

なし。

10. 授業時間外学習：留学先の大学で学んだことと共に、日々の暮らしを通じ、日本との文化的な違い・驚きを、きちんと記録しておくこと。

Students will keep a record of both the things they learn at the foreign university and the cultural differences and surprising things they experience in their daily lives.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

この授業は3ヶ月以上の海外留学を行って帰国したものを対象とする。

海外留学に関連した授業としては「基礎海外研修 I」、「基礎海外研修 II」、「発展海外研修 I」、「発展海外研修 II」があるが、合計6単位を上限とする。

This course is aimed at students who have returned from 3 months or more of student exchange. The courses connected to overseas study are "Overseas Study (Introductory Lecture) I", "Overseas Study (Introductory Lecture) II", "Overseas Study (Advanced Seminar) I" and "Overseas Study (Advanced Seminar) II".

科目名：発展海外研修Ⅱ／ Overseas Study (Seminar) II

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：通年 単位数：6

担当教員：文学部学務教育室長

コード：LB98835 科目ナンバリング：LHM-OAR906J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：発展海外研修Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Overseas Study (Advanced Seminar) II

3. 授業の目的と概要：この授業は、6 か月以上の海外留学を行うものを対象とし、その海外留学経験を深化・発展させることを目的とする。海外留学中に月一回程度のレポートを提出し（電子メール）、帰国後には留学で学んだことを整理し、総合的に振り返るレポートを提出してもらう。また面接を実施し、留学で得た知見を発表してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is aimed at students who will be studying abroad for 6 months or more and is intended to deepen and enrich the experience of studying overseas. Students are required to submit monthly reports (by email) during their time as exchange students and a comprehensive report on the knowledge they gained abroad after they return. Interviews will also be conducted and students will give a presentation on their experiences abroad.

5. 学習の到達目標：

海外留学で得た経験と知識をきちんと表現できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn to properly express their experiences studying abroad and the knowledge that they gained.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. レポート作成とそれに基づいた指導 1
2. レポート作成とそれに基づいた指導 2
3. レポート作成とそれに基づいた指導 3
4. レポート作成とそれに基づいた指導 4
5. レポート作成とそれに基づいた指導 5
6. レポート作成とそれに基づいた指導 6
7. レポート作成とそれに基づいた指導 7
8. レポート作成とそれに基づいた指導 8
9. レポート作成とそれに基づいた指導 9
10. レポート作成とそれに基づいた指導 10
11. レポート作成とそれに基づいた指導 11
12. レポート作成とそれに基づいた指導 12
13. レポート作成とそれに基づいた指導 13
14. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 1
15. 面接による習熟度確認とそれに基づく指導 2

8. 成績評価方法：

レポート[50%]・面接試験[50%]

9. 教科書および参考書：

なし。

None.

10. 授業時間外学習：留学先の大学で学んだことと共に、日々の暮らしを通じ、日本との文化的な違い・驚きを、きちんと記録しておくこと。

Students will keep a record of both the things they learn at the foreign university and the cultural differences and surprising things they experience in their daily lives.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

この授業は6ヶ月以上の海外留学を行って帰国したものを対象とする。

海外留学に関連した授業としては「基礎海外研修Ⅰ」、「基礎海外研修Ⅱ」、「発展海外研修Ⅰ」、「発展海外研修Ⅱ」があるが、合計6単位を上限とする。

This course is aimed at students who have returned from 6 months or more of student exchange. The courses connected to overseas study are "Overseas Study (Introductory Lecture) I", "Overseas Study (Introductory Lecture) II", "Overseas Study (Advanced Seminar) I" and "Overseas Study (Advanced Seminar) II".

科目名：博物館概論／ Museology (General Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：岡部 幹彦

コード：LB98838 **科目ナンバリング：**LHM-CUM301J **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：博物館の機能と学芸員の果たすべき役割

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Museum Studies

3. 授業の目的と概要：博物館学の構成ならびに博物館の定義を通じて博物館の目的・機能、社会的存在意義について学習する。また、我が国および諸外国の博物館の歴史と法制度等について学習し、その現状と課題ならびに我が国博物館の特性と学芸員の役割を理解する。博物館に関する基礎知識を修得し、専門性の基礎となる能力を養う。

スライドを用いて講義形式で進行するが、適宜対話形式をとる。内外の事例を数多くの映像で紹介するほか、実物資料も用いる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers an opportunity to understand the purpose, function and social significance of museums. In addition, we will explore the history of museums in Japan and foreign countries as well as legal systems. The course examines its current situation and issues and characteristics of Japanese museums. Upon completion of this course, you will have a fundamental knowledge of museums, which forms the foundation for expertise.

This is a lecture-centered course using slides and we will have a discussion when appropriate. In addition to introducing domestic and international examples using various slides, we also utilize display objects.

5. 学習の到達目標：

博物館の本質的機能とその社会的存在意義を理解し、これらからの博物館活動を考え、実践するうえで必要な基礎知識を修得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：At the end of the course, you will have an understanding of the essential functions of the museum and its social significance, in addition to a fundamental knowledge to assess and practical activities in the museum.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、博物館学とは
2. 博物館の歴史 (1)
3. 博物館の歴史 (2) —日本の博物館史—
4. 博物館の定義 —博物館法と ICOM の定義—
5. 博物館の業務と機能
6. 博物館の種類と区分 —設置者、運営者と法的区分—
7. 統計にみる博物館像 —日本の博物館の現状—
8. 学芸員の役割 —日本の学芸員の現状と課題—
9. 博物館と生涯学習 —博物館と他の社会教育施設—
10. 博物館教育 —教育と学習、博物館ならではの学びとは— 1
11. 博物館と地域社会 (1) —施設運営から運動体の核としての発想へ—
12. 博物館と地域社会 (2) —実践事例に学ぶ—
13. 高度情報化社会における博物館の機能 —新たな情報共有システムの構築—
14. 博物館と関連法令等 —国際条約と国内法—
15. まとめ —学芸員とは何か、求められる資質と役割—

8. 成績評価方法：

授業への取り組み姿勢とレポートにより総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。プリント配布または参考図書を適宜示す。

Main course materials will be handouts and no textbooks will be used. Reference books will be suggested when appropriate.

10. 授業時間外学習：多くの博物館のウェブサイトを開覧し、また身近な博物館を訪れて案内リーフレットや展示案内、事業案内 (参加募集チラシ) 等を入手し、すくなくとも利用者として博物館を理解しておくこと。特別展 (企画展) や常設展を観覧して、展示テーマや展示構成、展示方法、展示設備等と観覧者の反応などを観察しておくこと。

Students are required to visit familiar museums and obtain pamphlets, exhibition guides and other relevant materials in order to understand museums as a visitor. Moreover, students need to observe themes, arrangements, exhibition methods of both temporary and permanent exhibitions as well as reaction and behavior of viewers. Furthermore, students need to visit websites of various museums.

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：博物館経営論／ Museum administration

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：高橋 修

コード：LB98839 科目ナンバリング：LHM-CUM302J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：博物館経営論
2. Course Title (授業題目)：Museum administration
3. 授業の目的と概要：博物館の活動は資料の研究、収集・保存、展示、普及交流事業といった基本的な活動に加え、地域振興、NPO やボランティア等の市民団体との連携、博物館評価など、その事業内容は多面化しつつあります。これら事業同士を結び付け、発展させていくために、あらためて博物館経営の在り方が問われています。博物館経営の現状と課題についての諸問題を学びます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The role of Museums diversifies. For example, in addition to research, collection, conservation management, exhibition, education, there are revitalization for regions, cooperation with citizens or museum evaluation, too. We connect these business, and it is a problem to develop from a viewpoint of the Museum management. This course introduces the present conditions and problems of the Museum management to students taking this course.
5. 学習の到達目標：
 - 1：博物館経営の基本的な仕組みを理解する。
 - 2：社会と博物館との関係の築き方について、博物館経営の視点からその現状と課題について理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. The student will explain the basic structure of Museum management.
2. The student will explain the cooperation reinforcement with a museum and the society from a viewpoint of the Museum management.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 ガイダンス
 - 第2回 博物館の使命と事業体系
 - 第3回 博物館評価の仕組み
 - 第4回 博物館のアメニティ ミュージアムショップとミュージアムレストランを中心に
 - 第5回 博物館経営における組織・人員の在り方
 - 第6回 博物館の運営形態 指定管理者制度を中心に
 - 第7回 博物館経営における集客と広報
 - 第8回 博物館の財政
 - 第9回 博物館を支援する団体 博物館友の会を中心に
 - 第10回 博物館同士のネットワーク
 - 第11回 博物館経営における市民参画 博物館ボランティアを中心に
 - 第12回 博物館経営と市民団体とのネットワーク NPO 法人との連携を中心に
 - 第13回 博物館経営における学校教育とのネットワーク
 - 第14回 博物館の危機管理
 - 第15回 まとめ 博物館経営の課題
8. 成績評価方法：

平常点(30%)、小レポート(30%)、試験(40%)

平常点は授業への参加状況、小レポートの提出状況等から総合的に判断をします。
9. 教科書および参考書：

参考書：大堀・水嶋編『博物館学 III 博物館情報・メディア論*博物館経営論』(学文社、2012 年)
10. 授業時間外学習：1：できるだけ様々な博物館を訪問し、運営の在り様について比較検討しながら、それぞれの館の個性を把握するよう努めてください。
2：博物館で刊行されている要覧・年報などの文献を読み、それぞれの館の運営の現状について把握するよう努めてください。
11. 実務・実践的授業/Practical business：○
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：

なし

科目名：博物館資料論／ Museum artifacts

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：藤澤 敦

コード：LB65102 科目ナンバリング：LHM-CUM303J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：博物館資料・標本の特性

2. Course Title (授業題目) : The characteristic of the various museum collections

3. 授業の目的と概要：博物館学芸員資格取得のために必要となる授業です。博物館の資料・標本には、多様な分野のものがあ
り、それぞれで特性が異なっている。その特性の違いに応じて、資料の収集と整理保管等の取り扱いの考え方や方法、調査研究
の方法も異なっている。本講義では、地学・考古学・美術史学等の各分野の資料標本について、4 人の教員が各専門分野から、
博物館資料としての特性を講義する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This class is needed for museum curator qualification
acquisition. In a museum there are many collections of the various fields, and the characteristic is different in
each. According to those characteristics, the way of collection and management is different. In this lecture, 4
teachers lecture on the special quality of the material specimen which are earth science, archaeology and an art
history, etc.

5. 学習の到達目標：

博物館資料の多様性について理解する。博物館の資料としての、地学・考古学・美術史学等の各分野の資料標本の特性について
理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students understand the variety and the
characteristic of the various museum collections.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義のクラスルームのクラスコードは 16zcjt5 です。

講義内容はクラスルームを必ず確認してください。

1. 講義の概要と進め方の説明および導入
2. 博物館法における博物館資料
3. 考古学資料の種類と特質
4. 考古学資料の収集と管理
5. 東北大学所蔵の考古学資料
6. 地学資料について (1)
7. 地学資料について (2)
8. 地学資料について (3)
9. 地学資料について (4)
10. 美術資料研究の歴史 (1)
11. 美術資料研究の歴史 (2)
12. 美術資料研究
13. 東日本大震災と博物館資料
14. 広がる博物館資料
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席と小レポートを合わせて合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：博物館資料保存論／ Museum preservation

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：水沢 教子

コード：LB98840 科目ナンバリング：LHM-CUM304J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：博物館資料保存の方法と実務

2. Course Title (授業題目) : Method and Technique of Museum Preservation

3. 授業の目的と概要：博物館における資料保存の学史を通してその意義を理解する。また、博物館資料について素材別に適切な保存を行うための知識を身につけ、その方法と技術を学ぶ。さらに守り伝えられた資料によって広がる世界を実感し、調査研究や普及公開への道筋を把握する。特に歴史資料に関し、事前の科学分析、脆弱遺物を対象にした手仕事での保存処理、優先順位をつけての修復、保管方法と保管環境への配慮、展示という学芸員の一連の取り組みの例示や、作業におけるエピソードを通じて、資料保存に対する博物館学芸員としての基本的な知識や技術と特に留意すべき点を、具体的かつ実践的に修得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course is a part of qualification for the curatorial occupation by the Japanese government. The lecture covers essential knowledge concerning appropriate methods and techniques for preservation and conservation of stored materials in the museum. The course also explores a variety of procedures on the part of the curatorial staff, including some philosophical aspects upon historical materials and documents.

5. 学習の到達目標：

博物館における資料ならびにその展示環境、収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための基礎的知識の修得をめざし、あわせて資料保存のための能力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students are expected to understand fundamental knowledge with techniques for actual preservation of stored materials in the museum.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：ハイブリッドで行います。

1. 「資料保存の哲学」：博物館学における資料保存論の位置づけと博物館で資料を保存する意義を理解する。
2. 「博物館資料としての文化財」：博物館資料と文化財の定義と内容をジャンル別に把握する。文化財の体系と文化財保護法、エコミュージアムや自然環境の保護への取り組みの状況を理解する。
3. 「資料保存の学史と災害対策」：資料保存の学史を、博物館の設立、各種法律の制定、学問としての保存科学の発展の3側面から学ぶ。また、各種災害への対策を実例を通して理解する。
4. 「資料保存の諸条件」：資料劣化の原因となる温湿度、光、室内汚染について、その現状と対策の具体的な方法を、博物館における事例から学ぶ。
5. 「くん蒸とIPM」：博物館における生物被害の実態を整理し、ガスくん蒸とその方法並びに環境上の影響からここ10年の中で導入されたIPMの具体的な方法と今後の可能性について学ぶ。
6. 「資料の梱包と安全な輸送」：資料を安全に運搬するための形態別・素材別梱包方法を会得する。輸送のための留意点や、立ち会いの方法等について学習する。
7. 「金属製品の状態調査」：金属製品の構造や劣化状態の調査方法として主にX線透過撮影、分析SEMによる元素分析を取り上げる。分析機器の原理、構造調査等の方法、またその結果確認できる歴史的事実、そしてそれを公開する方法と意義について整理する。
8. 「展示室の環境と資料保存」：博物館を訪問して展示室と収蔵庫の環境保全の工夫について具体的に見学し、理解を深める。
9. 「保存科学と修理」：博物館の機器を用いての、保存処理と修理の実践的な方法について具体的に見学し、より深く学習する。
10. 「地域資源の保護と活用」：有形文化財のうち建造物、並びに史跡、名勝、天然記念物の保護の歴史を学び、その必要や活用の方向性を考察する。
11. 「無機質遺物の保存科学」：土器・石器・金属器・ガラス等の出土時の応急処置方法及び恒久的な保存処理方法、博物館で劣化が発生した場合の処置方法についての詳細、さらに保存処理が完了した資料を取り扱う場合の注意点を整理する。

12. 「木製品の科学的調査」：資料の保存処理の事前分析として科学的調査が必要である。特に木質遺物や漆紙文書の赤外線調査は歴史的な情報の抽出方法としても重要であり、その原理と技術、具体的な事例を取り上げ、実例をもとに解説する。

13. 「木製品の保存科学」：木製品・種実類・漆製品など有機質遺物の保存処理方法を具体的に紹介し、保存処理が完了した博物館資料に劣化が起こった場合の処置方法や、劣化を引き起こさないための資料の取り扱い上の注意点、保管方法を整理する。

14. 「土器・土製品の理化学分析」：土器の胎土分析は、素材調査と考古資料としての産地推定の両方の目的をもっている。本講では砂の光学顕微鏡分析と粘土の化学組成分析を組み合わせる実践される方法を詳細に解説し、博物館での具体的な分析・展示事例として紹介する。

15. 「文化財を未来へ伝える意義の確認と試験」：博物館における資料保存の意義を理解する。

8. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [40%]・(○) 出席 [60%]

9. 教科書および参考書：

プリント資料を随時配布する。また参考文献について講義中に指示する。

10. 授業時間外学習：予習として事前に可能な範囲で博物館や美術館を訪問し、自分なりの博物館のイメージを作る。復習として木製品、金属製品などを展示している博物館を訪問し、資料の状態や展示の方法等授業で学んだ点に留意して確認してみる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：博物館展示論／ Museum exhibit planning and design

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中 **単位数：**2

担当教員：水沢教子

コード：LB98841 **科目ナンバリング：**LHM-CUM305J **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：博物館展示の理論と実践

2. Course Title (授業題目)：Theory and Practice of Museum Exhibit

3. 授業の目的と概要：展示は、博物館が収集・整理・保存して蓄積した資料を学際的な領域から調査研究して情報を引き出し、学術的かつ教育的な配慮のもとに、一般に広く公開することであり、博物館活動の要である。そして展示に込めた学芸員や博物館のメッセージは学術的にも社会的にも恩恵を与えるものでなければならない。本科目では、様々な展示の形態や歴史を知るとともに、展示の理論や方法論を把握し、さらに資料から展示を組み立てるにあたっての具体的な技術を修得することを目的とする。また、展示そのものの以外にも展示を構成する博物館での様々な取り組みを、実践例をもとに具体的に整理しながら紹介し、自主的に考え、実践できるような能力を養成する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is a part of qualification for the curatorial occupation by the Japanese government. The lecture covers essential subjects for the museum exhibition, from both educational facets and scientific objectivity. Practical knowledge and techniques for effective displays in exhibition halls and respective exhibit booths in the room are introduced. Aspects as the message on the part of the curatorial staff are also discussed, through various examples of display materials and texts.

5. 学習の到達目標：

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を修得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students are expected to learn fundamental techniques and methods for effective museum exhibits, including history, media, education, and forms of exhibition.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：ハイブリッドで行います。

1. 「博物館と展示」：博物館の分類・種類を確認し、それぞれの意義や役割どのような展示が行われてきたかを事例をもとに概観する。特に総合博物館、自然史博物館、歴史博物館、美術館の代表例を取り上げる。

2. 「展示と展示論の歴史」：ディスプレイとしての展示と展示論の学史を具体例を参考にしながら学ぶ。また日本の博物館の歴史を展示の視点から整理するとともに、明治時代以来展示の目的と理念がどのように考えられ説明されてきたかを概観する。

3. 「展示の諸形態」：展示の形態に関して、展示意図の有無、提示型と説示型、見学者の参加の有無、学術的な視座など12種類の分類について学ぶ。さらに第一、第二、第三世代の展示の進化形態を実例に即して整理する。

4. 「展示の政治性と社会性」：博物館の展示が社会教育、生涯教育と深く関係する事例として、第一に戦争と展示、第二に民族と展示を具体的に取り上げて解説する。

5. 「展示の製作」：展示の構想、基本設計、実施設計から完成までの流れを把握する。タイトル、期間設定、資料選定、動線・視線といった展示の基本的な事項と、実際の作業工程管理の重要性について認識を深める。

6. 「展示の実務」：展示ケース、各種演示具など展示のための設備や造形物（模型、複製、ジオラマ）についてその分類や特徴を捉える。また、情報の伝達装置として解説パネル、キャプションの製作方法や、より効果的に見せるための調光方法について整理する。

7. 「展示解説Ⅰーパネルとグラフィック」：文字パネルによる文章解説や音声解説、画像を重視したグラフィックパネルや機器による解説について整理する。また、来館者に対するよりよい解説方法について学習する。

8. 「展示解説Ⅱー展示図録一」：展示図録の意義をおさえ、その作成プロセスと印刷方法、メディアの使用法、校正の流れ等を具体的に講義するとともに、最近の展示図録のうち代表的な事例を紹介する。また、指定文化財の掲載公開に関する注意点についても触れる。

9. 「展示解説Ⅲー人による解説」：学芸員による口頭での解説の種類を知り、より効果的な解説を行うための注意点を抑え、具体的な解説事例から学ぶ。また、ミュージアムワークシートの活用方法やその意義を捉える。

10. 「展示の評価と改善更新」：博物館評価について、博物館が主体的に実施する自己評価、外部評価、第三者評価、そして博物館の設置者が行う評価について、具体例を交えて解説する。

11. 「展示環境と動線計画」：具体的に展示を見ながら来館者の動きと動線の関係、照明の使用方法を確認する。展示物により興味を持たせるためのワークシートやアンケートを作成し、学芸員の活動を実体験する。

12. 「資料整理と展示」：アーカイブスの整理方法と展示方法に関する具体例を見学し、より分かり易く知的欲求を満たす展示について考察を深める。

13. 「調査研究の成果としての展示」：資料を調査・研究し、そこから引き出された事実を蓄積して展示を構築していく説示型展示の具体的実践例を紹介。展示の役割と重要性、市民への還元の様相を把握する。

14. 「コミュニケーションとしての展示」：展示への理解をより深めてもらうための具体的な取り組みの工夫、来館者とのコミュニケーションの実践例について学習する。

15. 「展示の意義および試験」：博物館における展示の意義を理解する。

8. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [40%]・(○) 出席 [60%]

9. 教科書および参考書：

プリント資料を随時配布する。また参考文献については講義中に指示する。

10. 授業時間外学習：予習として事前に可能な範囲で博物館や美術館を訪問し、自分なりの博物館のイメージを作る。復習として授業で学んだ点を博物館を訪問して確認してみる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：博物館情報・メディア論／ Museum informatics and media practices

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：5 単位数：2

担当教員：皿井 舞

コード：LB98842 科目ナンバリング：LHM-CUM306J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：博物館情報の現在

2. Course Title (授業題目) : The Current Situation of the Cultural Information in Museum

3. 授業の目的と概要：博物館に求められる役割が大きく変化しつつあり、また高度情報化がますます進展する現在において、作品の収集・保管・活用を使命とする博物館は、いかなる文化財情報を作成し、発信していくのか。博物館における文化財情報とは何か、その情報の作成・整理・管理の理念と実際、さらに情報発信の方法について学ぶ。また文化財情報を利用する利用者の立場からも、日本だけではなく、世界においてどのような情報発信が行なわれているかを知り、博物館における情報のあり方について批判的に検証する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In Japan, the role of museums has accelerated changes drastically and our advanced information society has been rapidly developing. This lecture helps students to understand what information museums should make and dispatch, which mission is to collect, preserve, and utilize cultural properties. This course explains about management and dispatch of the cultural information in museums. In addition, from the point of user's view, this course also provides knowledge about information transmission in the world, and make students to consider the appropriate cultural information in Japan.

5. 学習の到達目標：

高度情報化社会における博物館を取り巻く情報環境、その今日における課題について理解する。博物館における情報発信の方法を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to understand actual conditions and problem regarding cultural information in advanced information society. This course aims to understand how to dispatch cultural information in museums.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、講義とミニ実習を中心とした授業とする。

1. ガイダンス
2. 博物館とメディア
3. 文化財情報の歴史 1
4. 文化財情報の歴史 2
5. デジタル技術と文化財情報 1
6. デジタル技術と文化財情報 2
7. 世界における文化財情報
8. 博物館と情報発信
9. 展覧会の成り立ち
10. ケーススタディ 1 展覧会をつくってみよう 1
11. ケーススタディ 2 展覧会をつくってみよう 2
12. ケーススタディ 3 展覧会をつくってみよう 3
13. ケーススタディ 4 プレゼンテーション
14. ケーススタディ 5 プレゼンテーション
15. ケーススタディ予備日 講評

8. 成績評価方法：

出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

講義のなかで適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：講義における予習事項として、内容に関連する身近な情報にできるだけ接して予備知識を持っておくことを勧める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：博物館実習Ⅱ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅱ

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時. 前期 金曜日 5 講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB55403 **科目ナンバリング：**LHM-CUM307J **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：史料整理・保存の理論と方法

2. Course Title (授業題目)：Document Organization and Preservation: Purpose and Methods

3. 授業の目的と概要： 歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問である。しかし、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。文字・画像の情報だけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などとの機能の相違や、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論などについて学んでいく。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れることがあるので、特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read and handle Japanese document. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：

史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop skills needed to handle real Japanese document.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面での実施を予定しているが、感染状況等により変更となる可能性がある。

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)
2. 史料保存の意義と意味 (2)
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論(1)
5. アーカイブズの理論(2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術 (1)
9. 目録作成の技術 (2)
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い
13. 史料整理の基礎 (1)
14. 史料整理の基礎 (2)
15. 史料整理の基礎 (3)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、可能な限り日本史実習・史料管理学Ⅱ「史料整理実習」（後期開講）と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業／Practical business

科目名：博物館実習Ⅲ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅲ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時、後期 水曜日 4講時

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LB63305 **科目ナンバリング：**LHM-CUM308J **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：博物館学資料分析法

2. Course Title (授業題目)：Field Work and Methodology on Museology

3. 授業の目的と概要：実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。授業以外にも、相当量の宿題あり。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：For the purpose of skill learning in museum studies practice, the class material is composed of archaeological research records and artifacts.

This course provides actual experiences of archaeological research. Archaeological records and excavated artifacts from the investigation by the Laboratory of Archaeology, Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University are used in the class. The method of analysis and production of excavation reports are practiced during the class hours. A heavy load of homework (off class hour laboratory work) are expected. Good commands of the Japanese language are necessary especially during discussion and laboratory work.

5. 学習の到達目標：

(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Basic skills of archaeological work can be learned in this course through practice.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (1)。
2. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (2)。
3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。
4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。
5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。
6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。
7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。
8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。
9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。
10. 写真撮影 (1)。
11. 写真撮影 (2)。
12. 写真撮影 (3)。
13. 保存処理に関する研修。
14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (1)。
15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (2)。

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]

(○) その他 (具体的には、受講態度、発掘調査等への積極的な取り組み) [30%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示。

10. 授業時間外学習：出土品の実測図作成などの宿題が相当量ある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

前期 (5セメスター) に考古学実習を履修していることが望ましい。本科目の履修には、考古学基礎実習 (2単位)、および考古学実習 (2単位) の既修程度 (考古資料実測図の作製、発掘調査経験、遺物整理の基礎) が求められる。

科目名：博物館実習Ⅳ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅳ

曜日・講時：前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：長岡龍作 杉本欣久

コード：LB52306 **科目ナンバリング：**LHM-CUM309J **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. **授業題目：**美術作品取り扱いの理論と実践
2. **Course Title (授業題目)：**Theory and practice of handling artworks
3. **授業の目的と概要：**作品調査の基礎的な技術と展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。
 1. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
 2. 展示についての考え方と実践
 3. 美術作品についての発表
4. **Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：**In order to acquire the basic skill of artwork research and to understand the thought for exhibition, this course provide students the following contents.
 1. Handling artwork and how to research artworks
 2. The thought for exhibition and practice
 3. Preparation of art works
5. **学習の到達目標：**
美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する。
6. **Learning Goals(学修の到達目標)：**Students learn the basic skills for art research and exhibition.
7. **授業の内容・方法と進度予定：**
この科目は「対面授業」です。
ただし、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。
この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。
 1. ガイダンス
 2. 学芸員になるために 一博物館の実状と学芸員という仕事一
 3. 「折本」「冊子」「卷子」の基礎と取り扱い
 4. 「掛軸」の基礎と取り扱い 1
 5. 「掛軸」の基礎と取り扱い 2
 6. 「屏風」の基礎と取り扱い 1
 7. 「屏風」の基礎と取り扱い 2
 8. 篆書(ハンコ)を読む
 9. 「刀剣」の基礎と取り扱い
 10. 「刀装具」「和鏡」の基礎と取り扱い
 11. 「仏像」の基礎と取り扱い
 12. カメラの撮影と画像の使用
 13. 箱の扱いと紐結び・工芸品の展示
 14. 博物館・美術館見学
 15. 取り扱い復習
8. **成績評価方法：**
出席 [80%]・授業態度 [20%]
9. **教科書および参考書：**
資料はその都度配布する。
10. **授業時間外学習：**展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。
11. **実務・実践的授業/Practicalbusiness：**○
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
12. **その他：**
3セメ(前期)のみの受講は認めない。必ず4セメ(後期)の東洋・日本美術史基礎実習(長岡・杉本)も履修すること。
実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。
基本的にグループ学習であることから、最低限の協調性が必要となる。

科目名：博物館実習Ⅴ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅴ

曜日・講時：前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LB52308 科目ナンバリング：LHM-CUM310J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品の視覚的分析：入門編

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Visual Analysis of Works of Art

3. 授業の目的と概要：西洋美術史を対象にして、美術作品の視覚的分析のための基本的な知識および技法を習得する。「作品研究ポスター」の作成を前期の課題目標とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will acquire basic knowledge and techniques for visual analysis of works of art in the history of Western art. The first semester's assignment is to create a "Research Poster".

5. 学習の到達目標：

美術作品の視覚的要素（構図、空間、色彩、線、モデリングなど）を客観的で分析的な言葉で記述し、作品の特質および魅力を提示する力を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquire the ability to describe the visual elements of a work of art (composition, space, color, line, modeling, etc.) in objective and analytical terms, and to present the qualities and appeal of the work.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1：ガイダンス（方法と手順）

2：構図と空間

3：色彩

4：線

5：モデリング

6：人物像

7：ジャンル

8：宮城県美術館見学（予定）

9：作品カタログとデータベースの活用

10：作品記述の基礎知識

11：ポスター制作（1）課題設定

12：ポスター制作（2）中間報告

13：ポスター制作（3）中間報告

14：ポスター制作（4）中間報告

15：ポスター発表

（註：宮城県美術館への見学については変更の可能性があります）

（授業の受け方については決定次第、グーグルクラスルームでご連絡いたします）

8. 成績評価方法：

出席、課題への準備、発表内容を総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

授業中に指示します。

10. 授業時間外学習：毎回の発表のための準備（情報調査、文章作成、スライド作成）および最終課題（ポスター作成）が必要となります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

出席が義務となりますので、やむを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください（他の講義、演習などの時間を通じてでも OK です）。また、課題を進める上での質問や相談があれば、とくに毎週水曜日 13:00～14:00 に研究室へ、または次の E メールへご連絡ください。Kaoru.adachi.d1●tohoku.ac.jp （●は@に変えて送信してください）。

科目名：博物館実習Ⅵ／ Museology (FieldWorkMethodology)Ⅵ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：5 単位数：1

担当教員：藤澤 敦

コード：LB98843 科目ナンバリング：LHM-CUM311J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：館園実習

2. Course Title (授業題目) : Museum training at the Tohoku university museum, archives and botanical garden

3. 授業の目的と概要：博物館学芸員資格取得のために必要となる授業です。博物館の資料・標本類について管理や展示などの作業方法を、本学に付設する植物園、史料館、自然史標本館において実習する。履修希望者の専攻分野に応じて、実習を行う館園を割り振り、より実践的な実習となるようにする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This class is needed for museum curator qualification acquisition. Students experience management in a museum and work of exhibition at this course. It's practiced in the Tohoku university museum, archives and botanical garden. Practiced facilities are assigned according to the specialty field of the attendance student.

5. 学習の到達目標：

博物館における資料・標本類の管理や展示の実務作業を体験し習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is help students to experience and acquire the work in a museum.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 全体での進め方の説明と担当館園の割り振り
2. 展示見学
3. 収蔵庫見学
4. 資料管理方法の体験（1）
5. 資料管理方法の体験（2）
6. 資料管理方法の体験（3）
7. 小グループによる展示案作成（1）
8. 小グループによる展示案作成（2）
9. 小グループによる展示案作成（3）
10. 小グループによる展示案作成（4）
11. 展示案の発表
12. 展示作成作業（1）
13. 展示作成作業（2）
14. 展示作成作業（3）
15. まとめと講評

8. 成績評価方法：

出席（80%）、受講態度（20%）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。必要な資料は適宜配布する。

10. 授業時間外学習：実習のため、前回授業の内容を踏まえて、次の授業での作業が進行する。前回の授業で行った作業を確認し、次の授業に備えること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：地理学 B／ Geography B

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：村山 良之

コード：LB54301 科目ナンバリング：LHM-GE0302J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：都市地理学からみた仙台
2. Course Title (授業題目)：Sendai: as a field of urban geography
3. 授業の目的と概要：都市の成立、立地と機能、都市の内部構造などをめぐる都市地理学とその周辺諸科学の成果や基礎的な理論を理解する。あわせて、主たる素材となる仙台についての基本的な情報を獲得する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course introduces the foundation of urban geography and the geographical information of Sendai as a main sample of the course.
5. 学習の到達目標：
 - ・都市地理学に関する基礎的な知識を獲得し、これを説明できるようになる。
 - ・仙台に関する都市地理学的知識を獲得し、仙台を案内できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to do the followings;
Describe and explain major findings and theories of urban geography,
Give someone a tour of Sendai.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

 1. オリエンテーション：高校までの「地理」と地理行列
 2. 城下町とその変容(1)：近世城下町の成立とその地理 的特徴（地形利用と空間構成）
 3. 城下町とその変容(2)：城下町仙臺の地理的特徴
 4. 城下町とその変容(3)：明治以降の城下町の変化
 5. 城下町とその変容(4)：戦災復興
 6. 都市と交通(1)：交通の発達と都市域の拡大および都 市内部構造の変容
 7. 都市と交通(2)：都市交通問題と世界の LRT
 8. 市街地の拡大と DID：町村合併と国勢調査
 9. 都市周辺の宅地開発(1)：仙台都市圏
 10. 都市周辺の宅地開発(2)：宅地開発と自然災害
 11. 都市の内部構造：因子生態研究
 12. 都市の順位・規模法則：明治以降の日本の最上位都市 群の変化
 13. 中心地理論：クリスタラーによる都市分布の説明
 14. 中枢管理機能と都市システム：日本の都市システム
 15. 中枢管理機能と都市システム：世界都市仮説と東京
8. 成績評価方法：

複数回のレポート、100%
9. 教科書および参考書：

藤井正・神谷浩夫編『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房、2014 年。
他にも授業中に紹介する。
10. 授業時間外学習：オフィスアワーは、授業終了後に予約。
11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：受講生は「都市地理学からみた仙台」の未履修者のこと。

科目名：地誌学／ Topography

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小田 隆史

コード：LB53101 科目ナンバリング：LHM-GE0303J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：都市社会の諸相・諸課題

2. Course Title (授業題目)：Multiple Aspects and Challenges in Urban Societies

3. 授業の目的と概要：地誌学の役割は人間の居住様式の多様性を地域性として説明するところにある。この授業では、日本、先進国、発展途上国の都市社会を事例に、グローバリゼーションの影響を受けながら諸都市が直面するローカル／グローバルな課題と、その解決に向けた取り組みやその効果について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：During the course, students will learn about challenges pertaining to urban societies of the world from geographical and topographical perspectives. The topics include such issues as urbanization, redevelopment, sustainability, natural disaster and globalization.

5. 学習の到達目標：

都市社会の諸相・諸課題に関する学習を通して地誌学的思考を身につけ、国内外の事例から、都市が直面する課題や解決に向けた取組などについての知識を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will acquire knowledge and skills in examining wide variety of urban issues from geographical and topographical perspectives, and will be able to consider possible solutions to such challenges faced by the urban societies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. 地誌学とはー地誌と地域研究
2. 地理学と空間概念
3. 世界都市論
4. 先進国の都市化
5. 発展途上国の都市化
6. ローカルとグローバル～「時間・空間の圧縮」の諸相
7. 発展途上国のコミュニティ開発～災害復興と防災
8. アメリカ地誌概説～その 1
9. アメリカ地誌概説～その 2
10. インナーシティと都市における多重剥奪
11. 移民・難民・エスニック集団と空間
12. 越境する人々の地誌～その 1 難民の発生と再定住
13. 越境する人々の地誌～その 2 日系アメリカ人コミュニティ
14. 場所の記憶と地誌～震災体験のアーカイブ
15. 総括・振り返り・授業内テスト

8. 成績評価方法：

筆記試験 [40%]、出席 [50%]、レポート [10%] で評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。

授業で必要な資料は適宜コピーして配布する。

No specific textbook is designated while some reading materials will be distributed during the course.

10. 授業時間外学習：オフィスアワーは設けていないが、教員は東北大（青葉山）に隣接する宮城教育大キャンパスに研究室があるため、希望があれば授業の内容等に関する質問・研究に関する相談を受け付ける。事前に要アポイントメント（連絡先メール等は授業内で周知）。

There is no office hour for the lecturer, however, an appointment can be made for arranging a meeting for inquiries. The email address will be provided during the class.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

受講生は「都市社会の諸相・諸課題」の未履修者のこと

科目名：キリスト教史／ History of Christianity

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：宮崎 正美

コード：LB65209 科目ナンバリング：LHM-HIS313J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：キリスト教の歴史

2. Course Title (授業題目) : History of Christianity

3. 授業の目的と概要：この講義では、キリスト教の歴史に対する学術的理解を試みる。そのために、キリスト教神学の基本と、考察に必要な情報を補填し、現代に生きるわれわれに問われていることを考察する。ヨーロッパに広がり発展したキリスト教、特に西ヨーロッパのキリスト教に偏重することはしない。むしろ古代、および古代から中世にかけてのキリスト教の歴史を確認することによって、その後のキリスト教史がより理解されるであろう。したがって、特にヨーロッパ近代以降と同じ密度で記述することはできない。

歴史を語ることはできるのかという問いを意識し、「キリスト教」の歴史を語ることの意味、人間を対象とした探求の一つとして「キリスト教史」を考えてみたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：この講義では、キリスト教の歴史に対する学術的理解を試みる。そのために、キリスト教神学の基本と、考察に必要な情報を補填し、現代に生きるわれわれに問われていることを考察する。ヨーロッパに広がり発展したキリスト教、特に西ヨーロッパのキリスト教に偏重することはしない。むしろ古代、および古代から中世にかけてのキリスト教の歴史を確認することによって、その後のキリスト教史がより理解されるであろう。したがって、特にヨーロッパ近代以降と同じ密度で記述することはできない。

歴史を語ることはできるのかという問いを意識し、「キリスト教」の歴史を語ることの意味、人間を対象とした探求の一つとして「キリスト教史」を考えてみたい。

5. 学習の到達目標：

キリスト教思想の中心を理解することとおして、キリスト教の歴史を評価する基準・根拠について考察し、現代に対する影響と課題についてそれぞれの専門的関心との関連で研究できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：キリスト教思想の中心を理解することとおして、キリスト教の歴史を評価する基準・根拠について考察し、現代に対する影響と課題についてそれぞれの専門的関心との関連で研究できるようになる。

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション（1）本講義の目的・内容

- ・歴史の記述の問題、歴史的存在としての人間が歴史を記述すること
- ・キリスト教の過去の記述、歴史の中のキリスト教
- ・現代において我々が歴史を記述すること——時代を超えて普遍的なものの追求

2. イントロダクション（2）方法論

- ・記述の立場と基準をどこにおくか——現代キリスト教神学の学術的役割
- ・多様性と一致、〈自己〉と〈他者・他なるもの〉

3. キリスト教の発生とその周辺状況

- ・旧約聖書の中心
- ・イエスの福音はなぜ「良い知らせ」といえたのか
- ・キリスト教の核心としてのイエスの復活と「神の愛」との関連

4. 「イエスとは何者か」という問い

5. コンスタンティヌス体制以前までの古代キリスト教（1）

- ・信条という文書の役割と教会

6. コンスタンティヌス体制以前までの古代キリスト教（2）

- ・教会
- ・修道の発生と発展

7. キリスト教基本教義の確立、教会の権威（1）

- ・公会議によるキリスト両性論
- ・聖像（イコン）をめぐる問題

8. キリスト教基本教義の確立、教会の権威（2）

- ・公会議による三位一体論
- ・三位一体論と理解の試み
- ・教会と政治

9. キリスト教東方とキリスト教西方（1）
 - ・東方キリスト教と西方キリスト教——現在の姿
10. キリスト教東方とキリスト教西方（2）
 - ・東方キリスト教と西方キリスト教——文化的多様性の問題
 - ・ローマ帝国と東ローマ帝国、およびその後の“ローマ”
11. 神へのアプローチの営み（1）
 - ・東方と西方の人間論の相違——神化、聖化、義化（義認）
12. 神へのアプローチの営み（2）
 - ・修道 13. 現代世界の状況とキリスト教
 - ・自然科学、特に現代物理学とキリスト教
14. Epilogue（1）真理探求の営みと歴史的存在としての人間
 - ・キリスト教的人間観——memento mori
15. Epilogue（2）キリスト教と人類の未来
 - ・キリスト教的人間観——終末論
 - ・キリスト教的人間観——未解明の分野

8. 成績評価方法：

出席日数が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。

出席状況（3分の2の出席を単位取得の最低条件とし、残り3分の1を全体の40%に換算）、レポート・試験（60%）、に基づいて評価する。（ただし比重は平均点、偏り、状況等により調整することがある。）

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：指定したテキスト（プリント）の該当箇所を読んで、予習しておくこと。

Students are required to prepare for the assigned part of the handouts.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

この講義は日本語で提供されます。教科書に代えてプリントを配付する。履修後続いてラテン語 II の履修が望まれる。下記の教員あてメールアドレスをりようすることができる。

paul-m@tohoku.ac.jp (◎ を @ に代える) This course will be taught in Japanese. You will receive handouts instead of textbooks. You can use the following email address of teacher. paul-m◎tohoku.ac.jp (exchange ◎ to @)

科目名：書道／ Calligraphy

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：下田 真奈美

コード：LB54401 科目ナンバリング：LHM-OHU301J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：書表現の基礎(一) (漢字)

2. Course Title (授業題目) : The Elements of Calligraphy Expression (1) (Chinese Character)

3. 授業の目的と概要： 王羲之の用筆法による、楷書基本十点画を学ぶ。さらに、篆書、隸書、行書体を通じて、中国書道史の用筆法の変遷を学び、かつ書けるようにする。いずれも羊毛・長鋒を使用。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students will learn the ten basic technique of Kaisho-tai (square (block) style) ten-kaku (the dots and strokes that make up a kanji character) based on the Hippo (way of writing method) of Wang Xizhi (王羲之) . In addition, learning about the changes in the history of Chinese calligraphy through the Tensho-tai (seal-engraving style writing), Reisho-tai (clerical script), and Sosho-tai (cursive style), students will be able to write that styles. Brush made of sheep wool and long brush will be used.

5. 学習の到達目標：

中国伝統の用筆法に従って、五つの書体が書けるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students write chinese character by the five style of calligraphy according to the traditional brush strokes method in China.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 楷書の基本十点画① (左はらい)
3. 楷書の基本十点画② (点 1)
4. 楷書の基本十点画③ (よこ画)
5. 楷書の基本十点画④ (たて画)
6. 楷書の基本十点画⑤ (折れ)
7. 楷書の基本十点画⑥ (折れとはね)
8. 楷書の基本十点画⑦ (曲がりとはね)
9. 楷書の基本十点画⑧ (右はらい)
10. 楷書の基本十点画⑨ (点 2・点 3)
11. 基本十点画のまとめ
12. 篆書
13. 隸書
14. 草書
15. 創作

8. 成績評価方法：

出席 (毎時、清書提出) [100%]

9. 教科書および参考書：

肉筆手本・五體字類等

10. 授業時間外学習： 11. 「基本十点画のまとめ」を授業時間内に提出できない時は、学習課題として提出してもらう。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

適正に授業を行うために、受講生の上限を 50 名とする。希望者がこの人数を超える場合は制限を設け、国語科教員免許取得希望者を優先する。第一回の授業には必ず出席すること。

科目名：書道／ Calligraphy

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：下田 真奈美

コード：LB64401 科目ナンバリング：LHM-OHU301J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：書表現の基礎(二) (かな)
2. Course Title (授業題目) : The Elements of Calligraphy Expression (2) (Hiragana Character)
3. 授業の目的と概要：○ いろは単体から高野切第三種の臨書、倣書ができるようにする。
○ かな用小筆の執筆法・運筆法を、基礎から徹底して学習する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to imitate the penmanship from the writing style of each 'iroha' syllabary to the "Koyagire, the Third type". In addition, students thoroughly learn writing method with kana small brushes from the basics.
5. 学習の到達目標：
独力でかなの古典臨書ができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students write classic kana character according to a copybook by yourself.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. かな用小筆の執筆法・運筆法
 3. 基本練習といろは単体 1
 4. いろは単体 2
 5. いろは単体 3
 6. いろは単体のまとめ
 7. 変体仮名
 8. 連綿
 9. 高野切第三種の臨書 1
 10. 高野切第三種の臨書 2
 11. 高野切第三種の臨書 3
 12. 高野切第三種の臨書 4
 13. 高野切第三種の臨書 5
 14. 高野切第三種の倣書（下書き）
 15. 高野切第三種の倣書（清書）
8. 成績評価方法：
出席（毎時、清書提出）[100%]
9. 教科書および参考書：
肉筆手本・プリント・高野切三種（影印本）等。
10. 授業時間外学習： 14.「高野切第三種の倣書（下書き）」、15.「高野切第三種の倣書（清書）」を授業時間内に提出できない時は、学習課題として提出してもらう。
11. 実務・実践的授業/Practical business：
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business
12. その他：
適正に授業を行うために、受講生の上限を 50 名とする。希望者がこの人数を超える場合は制限を設け、国語科教員免許取得希望者を優先する。第一回の授業には必ず出席すること。

科目名：日本語論文作成法Ⅰ／Advanced Japanese for Academic writingⅠ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：7 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LB52210 科目ナンバリング：LHM-OHU304J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：対応科目なし】

1. 授業題目：アカデミックライティングの基礎

2. Course Title (授業題目)：Academic WritingⅠ

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を正確に、わかりやすく書けるようになることです。そのために、日本語で文章を書くときに必要な基礎的な知識、文法、表現などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to help students acquire basic academic writing skills in Japanese. This course also furthers the development of a student's skills in writing reports and research papers properly. In addition, students have opportunities to practice peer review and improve their reports.

5. 学習の到達目標：

- 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける
- 2 読み手にわかりやすく書く力をつける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to:

1. develop the writing skills and learn useful expressions.
2. learn proper sentence construction.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では、classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. オリエンテーション
2. 自己紹介文を書く
3. 自分の研究を紹介する
4. 書き言葉のルール
5. 過程を説明する
6. 定義を説明する①
7. 定義を説明する②
8. 分類・例示を説明する①
9. 分類・例示を説明する②
10. 比較・対照を説明する①
11. 比較・対照を説明する②
12. 原因・結果を説明する①
13. 原因・結果を説明する②
14. 全体のまとめ①
15. 全体のまとめ②

8. 成績評価方法：

宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%

以上の割合で、総合的に判定する

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『Good Writing へのパスポート』（くろしお出版）、『レポート・論文を書くための日本語文法』（くろしお出版）など

10. 授業時間外学習：ほぼ毎回、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語論文作成法Ⅱ／ Advanced Japanese for Academic writing II

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：8 単位数：2

担当教員：高橋亜紀子

コード：LB62208 科目ナンバリング：LHM-OHU305J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：対応科目なし】

1. 授業題目：アカデミックライティングの書き方

2. Course Title (授業題目)：Academic writing II

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を作成する手順にそって、レポートを完成させるまでのプロセスを学ぶことです。そのために、テーマの調べ方や資料の調べ方、文章の構成の仕方、引用の方法などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students learn and experience the process of writing a report in Japanese. This course also furthers the development of a student's research skills. Specifically, in developing a research topic and thesis, reviewing relevant literature, and learning writing structure and citation methods. In addition, students have opportunities to practice peer review and improve their reports.

5. 学習の到達目標：

- 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける
- 2 読み手にわかりやすく書く力をつける
- 3 レポートや論文を作成する方法を身に着ける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to

1. develop the writing skills and learn useful expressions.
2. learn proper sentence construction.
3. learn the skills necessary for writing a report or a research paper

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：オンライン）

1. オリエンテーション
2. テーマを見つけよう・調べよう
3. 資料の探し方を知ろう
4. 資料を整理しよう・話し合おう
5. 資料を読んで整理しよう
6. テーマの絞り込みと定義の重要性を学ぼう
7. 定義の書き方を考えよう
8. 筆者の意図と構成を考えよう
9. タイトル・アウトラインを作成しよう
10. 引用方法や参考文献の書き方を学ぼう
11. レポートを書くときの表現を学ぼう
12. レポートを作成する前に確認しよう
13. ともだちのレポートを読んでフィードバックをしよう
14. フィードバックを読んで、よりよい文章に直そう
15. 自分のレポートを読んで、自分の成長をまとめよう

8. 成績評価方法：

宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%

以上の割合で、総合的に判定する

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『あしか：アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』（ココ出版）、『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』（ひつじ書房）など

10. 授業時間外学習：ほぼ毎回、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語・日本文化論各論Ⅰ／Studies of Japanese Culture(Special Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LB55305 科目ナンバリング：LHM-OHU308E 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：対応科目なし】

1. 授業題目：日本語・日本文化論各論Ⅰ：近現代のポピュラー・カルチャー
2. Course Title (授業題目)：Studies of Japanese Culture(Special Lecture)Ⅰ：Modern and Contemporary Popular Culture
3. 授業の目的と概要：本授業は江戸時代初期から2000年代までの期間に焦点を絞り、日本のポピュラー・カルチャーの進展を辿っている。日本における創造生産の特徴、人気のあるコンテンツの種類及び典型的な消費パターンを紹介し、それを形成した要素を学生に考察させる。それによって日本のポピュラー・カルチャーの概要だけでなく、大衆文化の根本的な原理の理解が成立することが期待される。さらに、皆さんが講義と課題によって日本のポピュラー・カルチャーをめぐる研究と接触し、これから自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course focuses on the history of popular culture in modern and contemporary Japan (from Edo to the early 2000s): its main media forms, genres, and practices. It aims to describe multiple phenomena that have shaped cultural production and consumption patterns in Japan, as well as various media and artifacts that are now known worldwide. Beyond the main topic of the course, described above, students will get a better grasp of popular culture in general and understand the main principles of its development. The assignments introducing various samples of academic writing on the Japanese popular culture will allow students to discover new lines of inquiry potentially applicable in their postgraduate research.

5. 学習の到達目標：

- 江戸時代初期から2000年代にかけての日本の大衆文化の全貌を把握する。
- 各々のメディア、ジャンル、また創造産業の登場と展開を裏付ける歴史的状況、技術、そして社会の相互作用を理解する。
- 日本におけるメディアや消費活動などの特徴についての知識を活用し、世界中の大衆文化における傾向、また消費者と生産者の関係などを分析できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to:

- 1) Describe the overall history of popular culture in Japan from the Edo period to the early 2000s.
- 2) Explain how historical circumstances, technological developments, and social changes came to get

7. 授業の内容・方法と進度予定：

The course will be conducted in English, however supplementary reading may include materials in Japanese.

1. Introduction: Various cultures - popular culture
2. Proto-popular culture in Edo period I: Yōkai and hayarigami
3. Proto-popular culture in Edo period II: Life and entertainment in cities and in the countryside
4. Proto-popular culture in Edo period III: Play and liminal spaces, traveling
5. The Taishō period: Urbanization, westernization, new forms of entertainment
6. Mid-term test
7. After the World War II: From the occupation into the tumultuous 60s
8. The affluent 70s: The arrival of kawaii culture
9. Many faces of 'kyara'
10. A brief history of Japanese TV
11. Idols, celebrities, and promotional agencies: Tarento
12. Idols, celebrities, and promotional agencies: Idols
13. Proliferation of otaku hobbies at the turn of the century
14. Final test
15. Review of test results and closing notes

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席(20%)、課題(35%)、中間と期末テスト(35%)、および授業への貢献を加味する(10%)。

9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習：Students are required to read the materials provided to them by the lecturer and complete corresponding assignments before class.

Students are also encouraged to actively draw examples and cases from their own experience of popular culture within and outside Japan.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他 :

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:
olga.s.kopilova@gmail.com

You can also find me in my office on Mon. ~Fri. 8:30 am-17.30 pm.

科目名：日本語・日本文化論各論Ⅱ／ Studies of Japanese Culture(Special Lecture) II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LB65306 科目ナンバリング：LHM-OHU309E 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：対応科目なし】

1. 授業題目：日本語・日本文化論各論Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Studies of Japanese Culture(Special Lecture) II: Otaku Market and Fan Cultures

3. 授業の目的と概要：本授業は「日本文化論特論Ⅰ」をもとに、日本におけるポピュラー・カルチャーとファン・カルチャー（オタク文化）の相互関係を説明する。具体的に言えば、オタクの根本的な価値観、興味及び指向、そしてそれに応じたコンテンツの分類を解説した上で、創造産業と消費者の相互影響を明らかにする。各々の創造産業の事情と戦略、コンテンツと物語内容の関係性、表現メディアの特徴、ファン活動と消費パターンといった幅広いテーマが取り上げられ、受講者が様々なメディアやそれに関連するサブカルチャーの特徴について知ることができる。皆さんがこの授業によって自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：As a direct continuation of 日本文化論特論Ⅰ(taking the first course is not a strict requirement), this course demonstrates how popular culture in Japan mixes with a more niche fan (otaku) culture and vice versa.

It describes typical fan practices and values and proceeds to demonstrate how creative industries (for instance, TV producers, publishers, or game developers) interact with consumers (especially fans) and how different types of IP are disseminated and used. Through this course, students will gain an opportunity to consider multiple phenomena that distinguish cultural production in Japan, from economic conditions that influence creative industries, to consumption patterns and fan activities, to storytelling techniques, to the specificity of various media. Students will develop a more nuanced understanding of various entertainment media and their most dedicated consumers, on the one hand, and be able to discover new lines of inquiry potentially applicable in their postgraduate research, on the other hand.

5. 学習の到達目標：

——オタク市場に関わる主な表現メディアの歴史を把握し、メディアの生産、流布と消費の特徴、あるいはメディアの相互関係についての知識を有する。

——日本のオタク文化及びファンの消費行動の特徴、それに関連する主な概念を知り、他の国におけるファン・カルチャーとの共通点あるいは類似点を見いだせる。

——日本のポピュラー作品を多面的かつ包括的に解説し、様々な観点から評価できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to:

1) Describe major media associated with Japanese otaku market, their history, specifics of their production, distribution and consumption, as well as their relations with other media.

2) Recognize ke

7. 授業の内容・方法と進度予定：

〔授業内容・方法と進度予定〕

The course will be conducted in English, however supplementary reading will include materials in Japanese.

1. The many faces of otaku
2. Different types of fan engagement and fan creativity
3. What is media mix? Creative industries and transmedial franchises
4. Various media of otaku market I: how anime is made
5. Various media of otaku market II: how manga is made
6. Various media of otaku market III: manga industries
7. Various media of otaku market IV: games - Monster Hunter and its popularity; visual novels
8. Various media of otaku market V: visual novels and voice acting; audio dramas
9. Various media of otaku market VI: voice acting history in Japanese popular media
10. Various media of otaku market VII: tokusatsu films/TV series and kaiju
11. 2.5-jigen practices: cosplay and anime tourism (contents tourism)
12. 2.5-jigen practices: 2.5 stage plays/musicals
13. Idols, celebrities, and promotional agencies
14. Otaku market expanding outside Japan
15. Final test

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席(20%)、課題(35%)、中間と期末テスト(35%)、および授業への貢献を加味する(10%)。

9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習：Students are required to read the materials provided to them by the lecturer and complete corresponding assignments before class.

Students are also encouraged to actively draw examples and cases from their own experience of popular culture within and outside Japan.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:
olga.s.kopilova@gmail.com

You can also find me in my office on Mon. ~Fri. 8:30 am-17.30 pm.

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：原 塑、戸島 貴代志、阿部 恒之、木村 邦博、坂井 信之、辻本 昌弘、小林 隆、小泉 政利

コード：LB53504 **科目ナンバリング：**LHM-OHU311J **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：人文社会科学総合】

1. 授業題目：研究と実践の倫理

2. Course Title (授業題目)：Research Ethics

3. 授業の目的と概要：科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方でも導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々（大学生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行なう研究や研究発表を行なう責任を負っています。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で研究が行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければなりません。この授業では、研究倫理と公正な研究に関する基礎を講義し、その上で、それぞれの研究手法に応じた倫理的問題とその問題への対処方法について複数教員が担当し、解説します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, the theoretical basis of research ethics and integrity, as well as ethical problems typical of various research fields of humanities and social sciences are discussed.

5. 学習の到達目標：

研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通りです。

1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。
2. 実験・調査参加者や、その他の関与者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。
3. 責任ある仕方で行なう研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand research ethics and integrity, and to be able to practice research based on that understanding.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、オンライン、非同期授業として実施します。
授業内容は以下の通りです。

- 第1回：イントロダクション（担当：原塑）
- 第2回：人間と技術（担当：戸島貴代志）
- 第3回：科学と倫理（担当：戸島貴代志）
- 第4回：人を対象とした医学系研究における倫理（担当：坂井信之）
- 第5回：心理学実験における倫理（担当：坂井信之）
- 第6回：質問紙調査研究の実践と倫理（担当：木村邦博）
- 第7回：研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向（担当：木村邦博）
- 第8回：フィールドワークにおける倫理の基本原則（担当：辻本昌弘）
- 第9回：フィールドワークにおける倫理の実践的問題（担当：辻本昌弘）
- 第10回：聞き取り調査の実践と倫理の諸問題（担当：小林隆）
- 第11回：著作権・商標・特許等の問題について（担当：阿部恒之）
- 第12回：研究不正の防止と対応（担当：小泉政利）
- 第13回：引用において気をつけるべきこと（担当：原塑）
- 第14回：ピア・レビューと研究の質保証（担当：原塑）
- 第15回：研究の再現性（担当：原塑）

8. 成績評価方法：

平常点 30%、e-ラーニングの受講 20%、レポート 50%

9. 教科書および参考書：

指定された教科書はありません。参考書は授業時に教えます。

10. 授業時間外学習：講義内容について十分、復習を行ってください。授業内容について独自に調べ、理解を深めた上で、それをレポートとしてまとめていただきます。また、公正な研究について、e-ラーニングを受講する必要があります。e-ラーニングの受講方法については、初回の授業で指示します。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB53505 科目ナンバリング：LHM-OHU311J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：人文社会科学総合】

1. 授業題目：死生学文献講読

2. Course Title (授業題目)：Readings: Death and Life Studies

3. 授業の目的と概要：グリーフケアに関する文献を読み、現代人の生活の諸局面に現われる悲嘆とそのケアの方法と問題点について基礎的な知識を得る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will read literature on the history and culture related to grief care.

5. 学習の到達目標：

悲嘆を抱える人々に対してどのような方法で接することがケアという観点から有効であるのか、事例を踏まえて理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn the history and culture related to grief care, in order to understand effective method of care for the bereaved. .

7. 授業の内容・方法と進度予定：

昨年は島菌進『ともに悲嘆を生きる グリーフケアの歴史と文化』（朝日新聞出版 2019）を読み進めた。

今年度は受講者との相談により、テキストをあらたて選定し、講読を行なう。

学生は担当箇所についての要約発表を行い、授業内でディスカッションを行なう。

(1)イントロダクション

(2)【第 1 章】悲嘆が身近になる時代

(3)【第 2 章】グリーフケアと宗教の役割

(4)【第 3 章】グリーフケアが知られるようになるまで

(5)【第 4 章】グリーフケアが身近に感じられるわけ

(6)ディスカッション(1)

(7)【第 6 章】悲しみを分かち合う「うた」

(8)【第 5 章】悲嘆を物語る文学

(9)【第 7 章】戦争による悲嘆を分かち合う困難

(10)【第 8 章】悲嘆を分かち合う形の変容

(11)ディスカッション(2)

(12)カウンセリングと宗教論文(1)

(13)カウンセリングと宗教論文(2)

(14)カウンセリングと宗教論文(3)

(15)ディスカッション(3)

8. 成績評価方法：

出席回数と発表内容により総合に評価する。

9. 教科書および参考書：

島菌進『ともに悲嘆を生きる グリーフケアの歴史と文化』（朝日新聞出版 2019）

サブテキスト 高木慶子編『グリーフケア入門』勁草書房 2012

10. 授業時間外学習：指定テキストを熟読すること。発表担当者はレジュメを用意すること。詳細は初回に指示する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB63505 科目ナンバリング：LHM-OHU311J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：人文社会科学総合】

1. 授業題目：実践宗教学試論～宗教者によるケア実践（オムニバス）

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Practical Religious Studies

3. 授業の目的と概要：宗教者が公共空間でケア従事者の役割を果たすために何が必要なのか。生老病死をめぐる現代日本社会の諸状況を踏まえて課題と可能性を学ぶ。宗教者を含む実務者をゲスト講師に招き、オムニバス形式で行なう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class is an omnibus lecture series. Students will learn about how various professionals, including religious professionals, are tackling with the problems that contemporary society is facing.

5. 学習の到達目標：

さまざまな実践例から、ケアの諸相を理解し、現代日本社会が直面している問題について理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn how religious professionals cooperate with other professionals in dealing with various problems in terms of care.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) 臨床宗教師の理念
- (2) グリーフケアと宗教
- (3) カフェ・デ・モンク（宗教者による被災地支援の実情）
- (4) スピリチュアルケアと宗教的ケア
- (5) 終末期医療と宗教者
- (6) 臨床心理学と宗教
- (7) 民間信仰論
- (8) 宗教間対話
- (9) 臨床宗教師の実践報告 (1)
- (10) 臨床宗教師の実践報告 (2)
- (11) 臨床宗教師の実践報告 (3)
- (12) 臨床宗教師の実践報告 (4)
- (13) 臨床宗教師の実践報告 (5)
- (14) 臨床宗教師の実践報告 (6)
- (15) 臨床宗教師の実践報告 (7) (1) Introduction; On interfaith chaplaincy

8. 成績評価方法：

出席とミニットペーパーによる。

9. 教科書および参考書：

指定しない。

10. 授業時間外学習：指示があった場合、指定文献を読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：大村 哲夫

コード：LB51207 科目ナンバリング：LHM-OHU311J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：人文社会科学総合】

1. 授業題目：死から生を考える臨床死生学：人間の死とは何か？

2. Course Title (授業題目)：Clinical thanatology thinking about life from death: What is a person's death?

3. 授業の目的と概要：人は自らの死を経験することはできないが、他者の死を通して学ぶことは出来る。人間だけが、「自分もやがて死ぬことを意識できる生物」である。死は「自然現象」であると同時に、自他の死を受容する「文化現象」でもある。ヒトという生物の生である「人生」は、自己と他者である事物を結びつけ、それに意味を与えることによって作られる。「偶然」のできごとが「運命」の出会いとなるなど、人の生は合理的な思考のみで生きているわけではない。人生そのものが、映画や小説のテーマとなるように、人は非合理的な生き方に意味を見出している。人があえて、「合理的ではない行為」をとる時、その行為には心理的に深い意味が込められている。人の死に関わる「葬送」、「慰霊（供養）」、「墓参」なども非合理的な行為であるが、当事者にとって意味ある行為となる。自他の死の受容についても同様に、合理と非合理、立場の相違によって揺れる。本講では、具体的な「他者の死」から「自己の死」をデザインすることを通して、私たち一人一人の「生」を模索する一助としたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：People cannot experience beforehand their own death, but they can learn from the death of others. Only humans are “animals that are conscious of their own mortality.” Although death is a “natural phenomenon” it is also a “cultural phenomenon” where we must accept our death and those of others.

The life of the living organism known as man is “human life,” which is given meaning by the connection between the self and others. Just like how we turn the “coincidence” into the “fateful” encounter, a person does not live within rational thought alone. Life itself like the plot of a novel or movie is a person discovering meaning in irrational way of living. When a person must perform an “irrational act,” that action is embedded with deep psychological meaning. Funerals, memorializing the dead, and visiting the grave, which are related to a person's death, are irrational acts, but they become meaningful acts to the person performing them. How one's own death and that of others is received likewise sways between rational and irrational differing with the situation. It is hoped that the designing of our “own death,” based on the real “death of others,” will aid in each one of us humans as we journey through our lives.

5. 学習の到達目標：

1. タブー視されがちな自他の「死」を、具体的な事例を通して考えることによって、自らの「生」の意味を探る。
2. 「延命治療」や「尊厳死」、「安楽死」、脳死、臓器移植、緩和医療、認知症、死に場所、「終活」、葬儀など現代の問題について自ら考える力をつける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Explore the meaning of one's own life by thinking about the concrete examples of how people tend to view their own death and those of others as taboo.

2. Critically think about the contemporary problems such as “Life-support treatment” and “Dignity i

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容（予定）についてテーマを選択し、事例を通して考える。それぞれのテーマについて数回の講義を行う。ミニット・ペーパーを利用した匿名のディスカッションを行うことによって、死に方・生き方には普遍的「正解」はなく、それぞれの人や置かれている状況によって異なることを学ぶ。

0：イントロダクション 闇の中でこそ光が

1：現代人の死に場所 病院死と在宅死

2：「ホスピス」とシシリー・ソンドース

3：緩和医療とスピリチュアル・ケア

4：臓器は誰のもの？ 死の判定と臓器移植

5：あらかじめ決める 「安楽死」と「尊厳死」、「事前指示」

6：自らの死をデザインする 「エンディングノート」、「終活」

7：死を受容する心理 キューブラー＝ロスの5段階説

8：グリーフ・ケアとしての5段階と意味再構成

9：「よく生きること」と「ただ生きる」こと

10：ある少女の選択 命は誰のもの？

COVID-19 への対応のため前期は classroom を使う予定です。

8. 成績評価方法：毎時、ミニット・ペーパー提出。学期末課題論文提出。

9. 教科書および参考書： 特に定めないが、授業の中で参考図書を紹介する。

Additional references and texts will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習：40 分程度の予習と復習。About 40 minutes of study is required.

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business

12. その他：後期に同時間に展開される講義の前半であるが、単独受講を妨げない。

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大村 哲夫

コード：LB61208 科目ナンバリング：LHM-0HU311J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：人文社会科学総合】

1. 授業題目：悲嘆学試論：自他の死をどう受け止めるか？
2. Course Title (授業題目)：Grief Studies Theory
3. 授業の目的と概要：人は生きていく上でさまざまな「悲嘆 (grief)」と遭遇する。誰でも起こりうる普遍的な経験と言える。自分にとってかけがえのないもの：自分のいのち、大切な人、ペット、故郷、記念となる物…を「喪失 (loss)」した時、私たちは心理面はもちろん、身体的にも痛みを覚え、さまざまな症状をおこす。「悲嘆」とそれへの対応は、人類のはじまりより共にあるものの、「学」として確立された領域というより、むしろ実践的な「知恵」の側面をもつ。本講ではこうした現状を踏まえ、悲嘆をケアすること (grief care) と、悲嘆からの立ち直り (grief work) について、「宗教」の役割にも触れつつ考えていきたい。前期と同様、事例 (ビデオを含む) を用いて展開する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Throughout their lives people have many encounters with “grief” 悲嘆. When faced with the “loss” 喪失 of those things that are indispensable to us, such as a memento, native home, pet, loved one, or even with our own life, then we feel the pain not only psychologically, but also physically. Such pain manifests in a variety of symptoms. Despite that grief and the coping with grief has accompanied humankind from its inception, rather than having an established domain as a field of study, instead an aspect of practical “wisdom” 知恵 exists. With an awareness of this current situation, in this lecture class we will explore how to care for grieving people (grief care) and how to help people overcome their grief (grief work) while thinking about the role of religion.
5. 学習の到達目標：
 1. 悲嘆という現象について理解する。
 2. 悲嘆を癒す「グリーフ・ケア」について学ぶ。
 3. 悲嘆からの立ち直り「グリーフ・ワーク」について学ぶ。
 4. 悲嘆と共に生きることについて考える力をつける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：
 1. Understand about the phenomenon of grief.
 2. Learn about how to ease grief (grief care).
 3. Learn about how to overcome grief (grief work).
 4. Critically think about how to live with grief.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容（予定）から選択し、可能な限り事例を通して考える。ミニット・ペーパーを利用した匿名のディスカッションを行うことによって、自ら考えるとともに他者の考えを知り、考えを深める。

 0. イントロダクション；「永訣の朝」 他者の死と私，
 1. 悲嘆と喪失
 2. 「ここは天国だよ」 認知症患者の世界と死の受容
 3. 死者のヴィジョン 「お迎え」か「譫妄」か
 4. 寝たきりの人生 『病牀六尺』
 5. 苦しみの意味づけ，
 6. 自己の死と予期悲嘆
 7. 看取り
 8. 死別の癒し：葬儀・宗教儀礼の意味，
 9. 意味再構成理論，
 10. 『子を喪へるの親の心』，
 - 1 1. 災害死，死者におくる卒業証書，
 - 1 2. 民間信仰：地蔵によるケア，
 - 1 3. 信仰治療 宗教と癒しなど，Guatemala の信仰治療
 - 1 4. 現代的死の受容：遍在と自然回帰，
 - 1 5. その他

online で実施する場合は，classroom を使う予定です。
8. 成績評価方法：毎時ミニット・ペーパーの提出。学期末課題論文提出。
9. 教科書および参考書：

特に定めないが、授業の中で参考図書を紹介する。

Additional references and texts will be provided by the instructor.
- 1 0. 授業時間外学習：40 分程度の予習と復習。About 40 minutes of study is required.
- 1 1. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
- 1 2. その他：前期の後半であるが、本講義のみの受講も妨げない。前期の進捗状況によって講義内容に変更されることがある。

科目名：人文社会科学総合／ Introduction to Humanities and Social Sciences

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：5 単位数：2

担当教員：直江 清隆・堀尾 喜彦・佐藤 茂雄・高浦 康有・山内 保典

コード：LB98844 科目ナンバリング：LHM-OHU311J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：人文社会科学総合】

1. 授業題目：＜人間中心＞で情報端末をデザインする

2. Course Title (授業題目)：Designing "human-centered" information terminal

3. 授業の目的と概要：情報技術の急速な発展により社会のあり方に大きな変化がもたらされてきた。新たな技術革新によってこれまでと違った可能性が開けてくることが期待されている一方、情報技術を介した社会や個々の人間の関わりや企業や研究者の担う責任にも大きな変化が生じてくることが予想されている。

この授業は、情報端末に焦点を当て、いかにして情報技術が人間の wellbeing (幸福、よい状態) に貢献できるかを議論し、これからの技術社会を適切に予想、評価しながら、社会と IT を協調的に発展させていく方法を獲得することを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The rapid development of information technology has brought about great changes in society. While new technological innovations are expected to open up new possibilities, human-society relations mediated by information technology and the responsibilities of companies and researchers will also change dramatically.

This course provides students with opportunities to discuss from many perspectives whether and how information technology contributes to enhancing human wellbeing (happiness, good state), gain the skills needed to anticipate and review the future IT society, and to find a way to develop IT cooperatively with the society.

5. 学習の到達目標：

1) IoT に関する倫理的、社会的な問題について、多様な側面からのアプローチを通して解決の方向や手法を学ぶ。また、2) 異なる立場、専門分野の人々の発想を理解し、コミュニケーションを取れる能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students learn about 1) directions and methods for solving social issues using various approaches (technical, ethical, economical and so on), and 2) develop the ability to understand and communicate with people in different positions and specialties.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は、多様な参加者によるワークショップとそれと相補うレクチャーによって構成される。ワークショップの参加者には、企業の技術者、理工系の大学院生、文科系等の大学院生を予定している。普段ふれあうことのない人びととのコミュニケーションを通じて、異なる立場の参加者が統一的なテーマについて自由に意見を交わし、共通の議論を創りあげていくことが目標となる。また、ワークショップの議論の後、議論を深化させる機会を設ける。

6 月に本年度の授業の内容についての説明会を開催するので、Classroomなどで確認して欲しい。レクチャー及びワークショップは9月6日～8日に集中講義の形で行うが、対面（可能ならば合宿）かオンラインかはコロナの状況により判断し、説明会の場で明らかにする。

1. オリエンテーション

2. レクチャー1「情報科学から見た情報端末」
レクチャー2「歴史や社会から見た情報端末」

3. 討論、ワークショップの方法の説明

4. アセスメント1「現在の情報端末を人間中心の観点から評価する」

5. アセスメント1 報告・全体討論

6. デザイン「2040年の「人間中心の情報端末」を考える

7. デザイン「2040年の「人間中心の情報端末」を考える

8. デザイン 報告・全体討論

9. アセスメント2「社会に与える変化を予測する」

10. アセスメント2「社会に与える変化を予測する」

11. アセスメント2 報告・全体討論

12. フォローアップ・レクチャー1「高齢化社会と情報端末」

フォローアップ・レクチャー2「IoT 社会と環境、資源」

13. フォローアップ・レクチャー3「IoT 社会と市民参加」

フォローアップ・レクチャー4「IoT と地域社会の実例」

14. アセスメント3「人間中心」な社会を仮想で作ってみる 15 全体討論 人間中心的社会とは何か

授業は、直江清隆(文学研究科)/高浦康有(経済学研究科)/堀尾喜彦(電気通信研究所)/佐藤茂雄(電気通信研究所)/山内 保典(高度教養教育・学生支援機構)および外部講師により行われる。

8. 成績評価方法：

発表・授業への取り組みや小レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

特になし/No textbooks will be used.

10. 授業時間外学習：website や書籍を通して、授業内容に関する情報や話題を収集すること。/Students are required to collect information

and topics related to the content of the class using websites and books.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

ワークショップには定員を設ける。この際、理工系の大学院生と文科系等の大学院生(及び学部生)のバランスも考慮するので、(可能性は低い)参加希望が叶えられない場合もありうる。

本実習のフォローアップ企画として「未来社会デザイン塾」を開設し、希望者を塾生として雇用する。この塾への参加により、ポスター発表や市民カフェなどの活動を通じてワークショップやレクチャーの成果を発展させることができる。